

いいもの成らせるさくらんぼ便り

「高温に負けない」さくらんぼ通信

Vol. 1 礼肥と早期落葉防止で充実した花芽を作ろう！

- ☆ 霜害・マメコバチの減少等、例年になく結実しにくい環境でしたが、結実対策が徹底された園地では、十分な着果が確保されました！
- ☆ 来年に向けた花芽は、すでに作られ始めています。
「高温に負けない安定生産」のため、収穫後の対策を徹底しよう！

【収穫後の管理作業】

- | | |
|------------------|------------|
| 1 花芽を充実させる | ⇒ 直ちに礼肥を施用 |
| 2 早期落葉を防止する | ⇒ 収穫後防除を徹底 |
| 3 暑さからマメコバチを保護する | ⇒ 暑熱対策を実施 |
| 4 健全な樹体生育を維持する | ⇒ 灌水を実施 |

1 礼肥の施用

≪樹体の養分蓄積と花芽の充実向上のため、礼肥を施用する≫

- ◎ 樹勢や着果量に応じて施用量を調整
- ◎ 礼肥は即効性肥料主体で施用
- ◎ 施肥後、降雨がなければ灌水
- ◎ 結実が少なかった園地・樹にも必ず施用



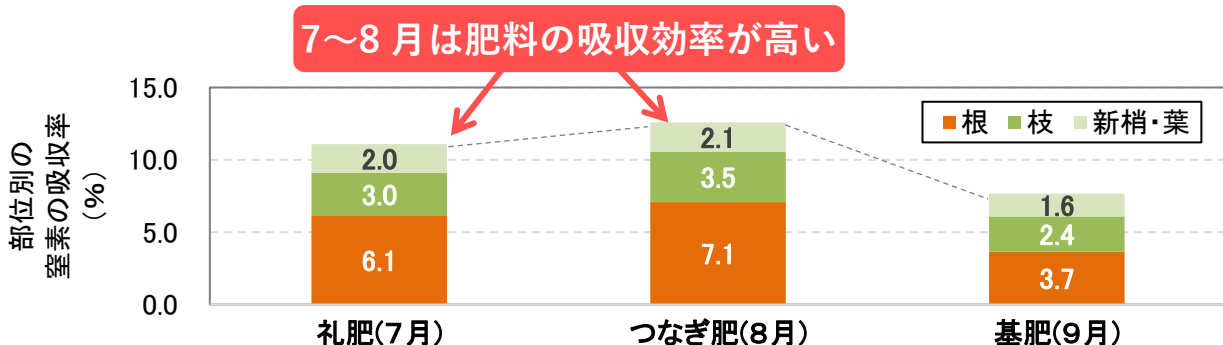
着果が多かった
「紅秀峰」「やまがた紅王」は
礼肥主体に多めに施肥

| 生育状況 | ・樹勢は弱い ・着果量は多かった ・地力は低い | ・樹勢は概ね適正 ・着果量は平年並 ・地力は平均的 | ・樹勢は強い ・着果量は少なかった ・地力は高い |
|---------------|-------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 年間施肥量 | 標準より増やす | 標準 | 標準より減らす |
| 年間施肥量に対する礼肥割合 | 50~100% | 20~50% | 0~20% |

※ 標準施肥量の目安(年間)：15kg/10a程度(窒素成分)

※ 礼肥割合が50%以上の場合、緩効性肥料も組み合わせる(例:即効性50%+緩効性50%)

※ 肥料の持ちが悪い園地(砂地や石が多い園地など)では、7月と8月に分けて施肥する



2 早期落葉の防止

早期落葉 → 同化養分（貯蔵養分）の減少 →

早期落葉の悪影響

- ◇ 花芽の充実不良（結実不良）
- ◇ 樹勢の低下

(1) 褐色せん孔病

《予防剤が鉄則》

- ・雨よけ被覆撤去前後の防除を徹底（雨に当たる前）
- ・散布間隔をあげない
（収穫直後から10～14日間隔で5回以上散布）

【注意点】

- ・前年多発園地、雨よけ被覆をしなかった園地は、確実に防除

(2) ハダニ類

《早期発見、早期防除の徹底》

- ・高温乾燥時に多発する！発生状況を確認し、タイムリーに防除
- ・かかりムラができないよう、丁寧に散布
- ・殺ダニ剤の防除タイミングに合わせて草刈り
（草刈り実施2～3日後に防除）
- ・気門封鎖剤を組み合わせると効果的に防除
（気門封鎖剤は、1週間間隔で2～3回散布）

褐色せん孔病



■ 定期的な防除が肝心！
こうなってからでは抑えきれない

ハダニ類



■ 多発（葉にかすり症状が発生）する前に防除

3 高温に対応した管理

(1) マメコバチの高温対策

《暑さからマメコバチを守る》

○ 巣箱を遮熱してマメコバチを守る

- ・ドラム缶製は高温になりマメコバチが死滅
⇒ 巣箱に発泡スチロールと反射資材を被せ、断熱
⇒ 盛夏期前に、小屋の涼しい場所に運んで、保管
※※巣が40℃以上になると死亡率増加※※

巣箱の遮熱



■ 発泡スチロールと反射資材で断熱

(2) 灌水の実施

《土壌乾燥から樹体を守る》

- ・高温・少雨時は、1週間に1回を目安に、20～30mm程度灌水
- ・弱樹勢樹や幼木、水持ちの悪い園地（砂質、礫質）では、積極的に灌水

注意！

☆作業中の転落事故を防止しましょう！

○脚立からの転落注意！危険な作業は二人以上で携帯電話を忘れずに！

【夏の熱中症等声かけ期間実施中】積極的に声かけをし、事故を防ごう！

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課
TEL:023-621-8291 TEL:0237-86-8301 TEL:0237-47-8630

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会(事務局:農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課)